



# 滝田医院ニュース

022-0001 岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地 滝田医院  
電話0192(29)3108 内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科

日本内科学会認定総合内科専門医・日本循環器学会認定循環器専門医 滝田 有

第17号

発行日 2008(平成20)年10月21日

目次:

診療再開します。当	1面
面は火から金曜まで	
インフルエンザ予防接種	1面
気仙人のための…	2面
タバコはダメよ!	2面
診察室から	2面

## 10月21日。本格的に診療復帰。

すっかり秋めいてきました。前回お伝えしましたが、去る9月11日に仙台にて、院長・滝田有は、未破裂の前交通動脈の脳動脈瘤に対して、「開頭クリッピング手術」を受けました。手術は無事成功。術後の経過も良好です。今回の手術により、脳の中に心配な病気の部分は無くなりました。本日(10月21日)より本格的に診療を再開しました。今年1月に倒れて以来、患者さんにはご心配、ご迷惑をお掛けしました。この場を借りてお詫びします。

なお、10月中は火曜日、木曜日、金曜日は1日の診療、水曜日は午前中のみ診療です。月曜日と土曜日は引き続き休診となります。11月からは土曜日の午前診療を再開する予定です。ただし月曜日は休診が主

となります。(場合によって診療する週もあります。)

また、6月から導入した診療予約制は、引き続き継続しますのでご了承下さい。ただし予約しない患者さんは診察しないという訳ではありません。院長自身の仙台の病院への受診や学会出張などで臨時休診もありうる状況ですので極力患者さんへの迷惑を避けるための処置です。また受付の名前を書いてもらうのは、本来は来院の順番を確認するためですが、順番取りと誤解されている方が増えてきましたので、別個に正式な予約制を設けました。したがってお呼びする順番は予約をした方が優先です。名前を書いた順にはお呼びしません。ただし具合が悪い方や時間がない方は受付までお知らせ下さい。配慮します。

### 今後の診療について

毎週火曜日(午前、午後)

水曜日(午前中)

木、金曜日(午前、午後)

11月からは土曜日午後も再開する予定です。

(ただし11月15日は休診)

またインフルエンザ予防接種も

11月一杯、予約受け付けます。

### インフルエンザ予防接種 はじめます。

11月からインフルエンザの予防接種を始めます。予約は既に受付を開始しています。今年は日付の他に時刻も予約してください。受付で申し込んでください。お電話でも可能です。

高血圧や糖尿病など慢性の病気で、1~3ヶ月に一回受診している患者さんで接種希望の方は看護師が相談しますので、改めて予約を取っていただく必要はありません。

高校生以上と大人は一回のみの接種です。中学生以下は二回の接種です。一回目と二回目の間隔は最低で3週間はあけて下さい。

また接種が有効なのはせいぜい3ヶ月間です。最近のインフルエンザの流行は遅くなる傾向にありますので、高校生以上の方は11月より12月の方が良

いかもかもしれません。ただし風邪を引いたり体調が悪かったりすると接種できませんので、お年寄りや体力の弱い方は早めに11月に済ませてしまった方が良いでしょう。赤ちゃん(乳児)は小児科での接種を勧めます。妊婦さんは一般的に日本では接種しません。また接種が予防効果を持つまでに2週間はかかりますので、一旦流行が始まってしまっからの接種は意味がありません。予約受付は11月一杯、接種は12月一杯で終了します。



高山樗牛 瞑想の松(仙台市)

## 気仙人のための、上手に医者にかかる方法

皆さんには耳の痛い話かもしれない。或いは意外に思われる、もしくは心外だと立腹される方もいるかもしれない。

しかし、いろいろな医者が交替で診察している県立病院のような大きな病院では、特にこの気仙地方は、「患者さんの診療がやりづらい。」という医者の意見を聞くことが少ない。昨年、院長が循環器の医者を充実してもらいたくて、盛岡の医大の偉い先生に話しに行ったときも、そうだった。同じようなニュアンスの事を言われた。「気仙は患者さん(の性質)が独特で(診療行為が)やりづらいね！医者はあまり行きたくないのだよ！！」

別に盛岡の医者が変わっているわけでもない。会津で3年、仙台で14.5年医者をやったかく言う院長も実のところ、気仙はやりにくいところがある

と思う。中学校まで気仙で過ごした自身も申し訳ないがそう思う。そうなってしまった責任の一端は、その患者さんの性質(というより診療態度)を指摘して、直そうとしなかった地元の開業医にもあるかもしれない。つまり院長の亡き父や祖父も責任を負うべきなのかもしれない。

これからますます田舎には医者が少なくなる時代。どうすれば医者に喜んできてもらえるか？言ってみれば「数少ない医療資源」と言える医者を有効に活用するにはどうすればいいのか(どうやって上手に使えるか)、勇気を持って書いてみることにした。

本題は、次回からおいおい書いていくことにする。生意気なことばがあったら、お許しいただきたい。ついでに医者の側の不備まで筆が滑って書いてしまうかもしれない。



仙台東照宮 (仙台市)

## タバコの話

患者さんの数が多かった日に、病院が終わったときに駐車場を見ると必ず数本のタバコの吸殻を見つける。愛煙家には世知辛い世の中だが、病院の建物内は勿論、敷地内で喫煙をするのは禁じられていることが多い。タバコの煙を吸う事は毒ガスを吸う事と同じ意味を持つ体の患者さんが少なからず通っているのが病院である。タバコを吸う事はこれらの患者さんに有害になるばかりではなく、自分自身にも害になっている。よく「咳が止まらない、何とかしてくれ」といってくる患者さんがいる。話を聞くとそう言う患者さんほど、タバコを吸い続けていることが多い。どんないい治療をし

て、いい薬を出したって、その手の患者さんの席は治りっこない。病院に来る前にまずタバコをやめる(せめて休む)ようにして欲しい。タバコをすいながら薬を使うのは、有効でないばかりでなく医療費の無駄遣いである。

ちなみに院長も10年以上前まではヘビースモーカーであった。自分の責任を考えある日思い立って禁煙した。今はなぜあんなものをぶかぶかすっていたのだらうと思う。この世の中でもまだ吸っている医者はいる。気が知れない。

また駐車場は車を止める場所であって吸殻ではない。



夏の五葉山 山頂付近

## 診察室から

前回、院長自身の半生を顧みた。経験が20年を過ぎて医者で言えば「脂の乗り切った」時期に、大病を患い患者の経験をした。自分で言うのも変だが、医者兼患者の貴重な体験だった。その意味で、これから医者を続けるのは一つの「天命」だと思ふ。

近日中に保健所が脳卒中の会を開く。ご指名が来たので、自分の病気の体験を医者という立場を踏まえて市民の方にお伝えしようと思ふ。正

式に日時が決まったらお知らせするので聴きにきていただきたい。

それから来年の2月の話で少し先になるが市主催の生活習慣病の予防講演会で「血圧が高いといわれたらどうすればいいのか？」をテーマに特定保健指導の対象になった方にお話をする事になった。自分の血圧もろくに測っていなかった馬鹿な医者の話を聞いていただきたい。